



日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>

<https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	3
➤ 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2017」 写真とメッセージを募集中 (5月22日応募〆切)

現在、全国各地より続々とご応募を頂いております。事務局では、ご応募頂いた作品を随時 Facebook ページにアップしています。

→<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

毎日投稿される写真やメッセージをみていると、なんだかこちらも色々な春の水辺を旅しているかのような気持ちになります。皆様もぜひご覧になってください。4月26日現在、1都2府16県の地域の皆様からご応募頂いています。

これまでご応募頂いた地域一覧

岩手県 (5)、茨城県 (1)、栃木県 (3)、群馬県 (2)、埼玉県 (1)、千葉県 (3)、東京都 (17)、神奈川県 (13)、新潟県 (1)、岐阜県 (1)、静岡県 (2)、愛知県 (1)、京都府 (3)、大阪府 (7)、兵庫県 (1)、岡山県 (2)、山口県 (1)、福岡県 (1)、大分県 (2)

さて、応募期間はよいよ後半を迎えましたが、まだまだ作品募集中です。これから桜の本番を迎える地域の皆様、ぜひご応募ください。また、すでに桜の季節が過ぎた地域の皆様も、デジカメやスマートフォンに残っている写真を今一度ご確認ください、お気軽にご応募いただければ幸いです。応募方法及びチラシについて、右の欄に再掲致します。同内容を Facebook ページからご投稿いただいても結構です。

ご応募頂いた作品は、後日冊子形式※にとりまとめ、PDF データでダウンロード可能とする予定です。

※過去のバックナンバーはこちら

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

応募方法 (Eメールの場合)

・Eメールタイトルは「桜のある水辺風景 2017 応募」とし、以下の内容をメール本文に記載の上、写真ファイルを添付して info@a-rr.net までお送り下さい。

【記載内容】

①題名②撮影場所③撮影年月④メッセージ (作品への思い等) ⑤氏名⑥Eメールアドレス

・その他詳細は、募集案内ページをご確認ください。

→<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/776.html>



桜のある水辺風景 2017 写真大募集

募集期間 平成29年 5月22日 まで

★ 応募概要 桜のある水辺風景 (2017年編)の作品に参ります。 (1)ご本人が撮影した写真に限ります。 (2)一人5点まで可能ですが写真1枚が特定できる人物画像が含まれる場合は桜の写体のみの応募となります。

★ 応募方法 Eメールでの応募: ①Eメールの宛先: info@a-rr.net ②Eメールの件名: 桜のある水辺風景 2017 応募 (3)Eメール本文: ①氏名、住所、電話番号、Eメールアドレス、撮影場所、撮影年月、メッセージ (4)添付ファイル: ①写真 (5)写真の撮影場所、撮影年月、撮影者 (6)メッセージ (7)作品への思い等 (8)氏名、Eメールアドレス

★ 注意事項 (1)Facebookページ及び後日作成の冊子等に参ります。 (2)応募作品を参照する際には氏名を掲載します。 (3)応募作品の掲載は、掲載の順序により掲載の順番が前後する場合があります。 (4)応募内容が本企画の趣旨に沿わないと判断した場合は参照を控えさせていただきます。 (5)掲載の順序やウェブサイトで使用させて頂くことがあります。 (6)応募作品は返却しません。

※応募に関する詳細情報はこちらから: <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/776.html>

氏名	Eメールアドレス
題名	写真コメント
撮影年月	撮影場所

主催: 日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN) 応募先: 問合せ先: info@a-rr.net JRRN

(JRRN 事務局・阿部充)

小さな自然再生普及プロジェクト-「第5回小さな自然再生現地研修会 in 千葉県白井市・神崎川」簡易報告書を発行しました

2016年12月8日(木)に千葉県白井市を流れる神崎川上流域をフィールドに開催しました『第5回「小さな自然再生」現地研修会』の簡易報告書が完成しました。

この開催報告は、「小さな自然再生」の考え方や留意点、また自然環境の保全・再生に向けた市民団体や自治体による取組みを学び、都市部の緑のネットワークづくりの視点から地域でできることについて議論した内容の一部を、当日の写真を中心に皆様にご紹介するものです。

報告書の構成は下記のとおりで、参加メンバー、現地研修会の流れ、座学での講師陣の発表概要、ワークショップの進め方、各グループの意見、意見の取りまとめをご覧ください。講師陣の説明につきましては、当日のプレゼン資料を参考資料として掲載しています。

報告書の構成

はじめに
開催概要
開催挨拶
座学研修(発表概要)
現地研修
ワークショップ
閉会挨拶
参考資料

今回の研修会の大きなポイントの一つは、現地を良く知る西廣准教授(東邦大学)が、全体のコーディネーターにご協力くださったことです。特にワークショップに入る前に、技術的な課題、今後の取り組みの進め方についての整理をしていただいたおかげで、ワークショップの論点が明確になり、短時間で密度の高い意見交換をすることができました。

その内容についても掲載していますので、小さな自然再生、神崎川に関心をお持ちの方はもちろんですが、ワークショップの進め方に興味のある方にもご一読いただければと思います。

本研修に協力頂きました、神崎川を守るしろい八幡溜の会、白井市、千葉県、東邦大学・西廣准教授、及び「小さな自然再生」研究会の皆様には厚く御礼申し上げます。

特に、今回の現地研修会のきっかけが、上西郷川での第3回「小さな自然再生現地研修会」に参加し、そこで興味をもたれた、「神崎川を守るしろい八幡溜の会」代表の寺園さんからの声かけであったことは、私たちの大きな励みになりました。本報告書をご覧ください。1人でも多く小さな自然再生に興味を持っていただければ幸いです。



※報告書は下記 URL よりダウンロード可能です。
※本活動は、(公財)河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。



第5回「小さな自然再生」現地研修会 開催報告
<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
(JRRN 事務局・内藤太輔)

5月



郡上市観光連盟公式サイト

<http://www.gujokankou.com/spot/06meihou/1265.html>

あの日のあの川 リレー日記 ～第28話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第28話主人公 前田紗希

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)

(出身地を流れる川：愛知県木曽川)

「3.2.1」

いつのこと？：小学生と今

どこの川？：吉田川

小学校2年生の時だったでしょうか。当時スイミングスクールに通っていたわたしは、そのスクールが主催するサマーキャンプに参加したことがある。

スクールの入り口に大きく張り出してある宣伝を見たのと、他の子が参加しているのを知ってうらやましく思ったわたしは、母に行きたいとせがんだ。母は承諾してくれて、わたしは学校の友達と二人で、そのサマーキャンプに申し込んだ。

小学校2年生である。家族から離れて寝泊りするの初めてだった。もしかしたら前日にやっぱり行きたくないに親に言ったかもしれない。不安な気持ちから不機嫌になったかもしれない。わたしはいつもそうなのだ。ちょっと勇気を出してみるものの、直前になると尻込みする。ともあれ、わたしが言い出したのだし友達を一人で行かせるわけにもいかない。期待と不安で胸をいっぱいにして、翌朝早朝にスクールを出発するバスに乗り込んだ。バスの中の多くは知らない顔だった。

行き先は郡上八幡だった。郡上八幡は小京都と呼ばれるように歴史ある古い町並みが有名だが、水の町としても知られている。町の中にも水路がめぐらされ、風情を醸し出している。その町中の水路に流れ込んでいる川が、吉田川、今回の

話の舞台となる川である。

その日宿泊するコテージに到着したわたしたちは、水着に着替え、安全講習を受けて、みんなで歩いて川へと向かった。川にたどり着き、最初にその澄んだ水を見たときの衝撃は、今も強く心に残っている。わたしはその時まで、あれほど澄んだ川を見たことがなかった。吉田川は、清流長良川を源流とする川で、岐阜県の名水 50 選にも選ばれている。しかしそんなことを知るのはずと後のことである。愛知県に生まれ育ち、家の前に流れる薬師川（これを書くにあたり調べたため、今の今まで名前すら知らなかった）は同じく木曽川水系ではありながら、川というよりも小さな小さな汚れた用水路、という環境で過ごしていたわたしは、この清くて美しい水の流れにそれは感動した。水のきらめき、透き通った水の向こうに見える魚のシルエット、反射する太陽の光、木の陰影、葉擦れの音、むせかえるような真夏の草のにおい。今でもありありと思い出せる。水に足をひたすと、とても冷たくて、また驚いた。冷たい冷たいと言いながら、足をつけたり引っ込めたりして散々はしゃいだ後、泳いだり潜ったり、流されてみたり、足がつかないところまで行ってみたりした。しかしあまりに水が冷たくて、長くは入ってられず、結局はほかの子が泳いでいるのを尻目に、水際で石を積んで魚を囲ったり、足をひたしながらおしゃべりしたりしていた。

お昼ご飯は川の脇の道で食べた。確かおにぎりか何かだったと思う。照り付ける太陽で温まったアスファルトの熱は、水に入ってすっかり冷えた体には心地良く、アスファルトに座って暖を取りながら食べた。外で食べるご飯というのは、どうしてあんなに美味しいのだろうか。そうして午後は、もう泳ぐことはあきらめて、生き物を捕まえることに熱中した。箱めがねを使って水中の様子を見ながら、石をひっくり返してカニや川虫を探したり、ちちこ（ちちぶのことをこう呼んでいた）を捕まえたりした。一緒にいた男の子が、カメがいるというのでみんなで見に行ったりもした。このころには、見知らぬ顔だった子たちとはすっかり友達になっていた。

一日中遊びまわり、心地よい疲労感と倦怠感に包まれて帰ったわたしたちを出迎えてくれたのは、よく冷やされたトマトとキュウリだった。コーチが配ってくれるのを一人ひとつずつ受け取り、塩をつけて食べた。わたしはこの時までキュウリが苦手だった。あの青臭さがどうしても受け入れられなかったし、正直に言えば、今でもそれほど美味しいと思って食べてはいない。しかし、この時ばかりはこのキュウリが本当に美味しく思え、徐々に夕闇に沈んでいくテラスでキュウリをかじりながら、充実感で満たされた気持ちになっていたことを覚えている。また、夜になるとみんなで蛍を見に行った。田んぼの脇のあぜ道を歩いていると、田んぼの上空に、黄色い小さな光が、ふわふわと無数に飛んでいるのを見た。後にも先にも、あんなにたくさんの蛍を見たのはあの時だけである。

満喫した二日間だった。

一泊二日の日程を終えて家に帰ったわたしは、行く前よりも、少しだけ成長したような気がした。自然の中で過ごした最高の思い出のひとつとして、また、初めて家族から離れ、知らない子たちと過ごした経験として、あの二日間は今も鮮明に胸に残っている。

しかし、わたしにはひとつだけ心残りがあるのだ。それは、川に飛び込みできなかったことである。あの時、男の子たちに人気だったのが、川への飛び込みだった。吉田川は、飛び込みの名所として地元の子供たちに親しまれている。わたしはあの時、飛び込みたいという気持ちはありながらも、少しの恐怖心と、男の子に混ざっていく勇気のなさ、失敗した時にみんなに見られたら恥ずかしいという思いから、挑戦できなかった。そのことが、ずっと心に残っているのである。

安全上の観点から、吉田川での飛び込みは、度々禁止されているようだが、それが一昨年、思いがけずリベンジを果たした。わたしの通う大学には水深 5m のプールがあり、飛び込み台が設置されているのだが、そのプールに数人で行った際に、みんなで飛び込もうということになったのである。3、2、1。心の中で一人掛け声を掛け、飛んだのは 7.5m の高さ。わたしはついに、あの夏のリベンジを果たすことができたのである。

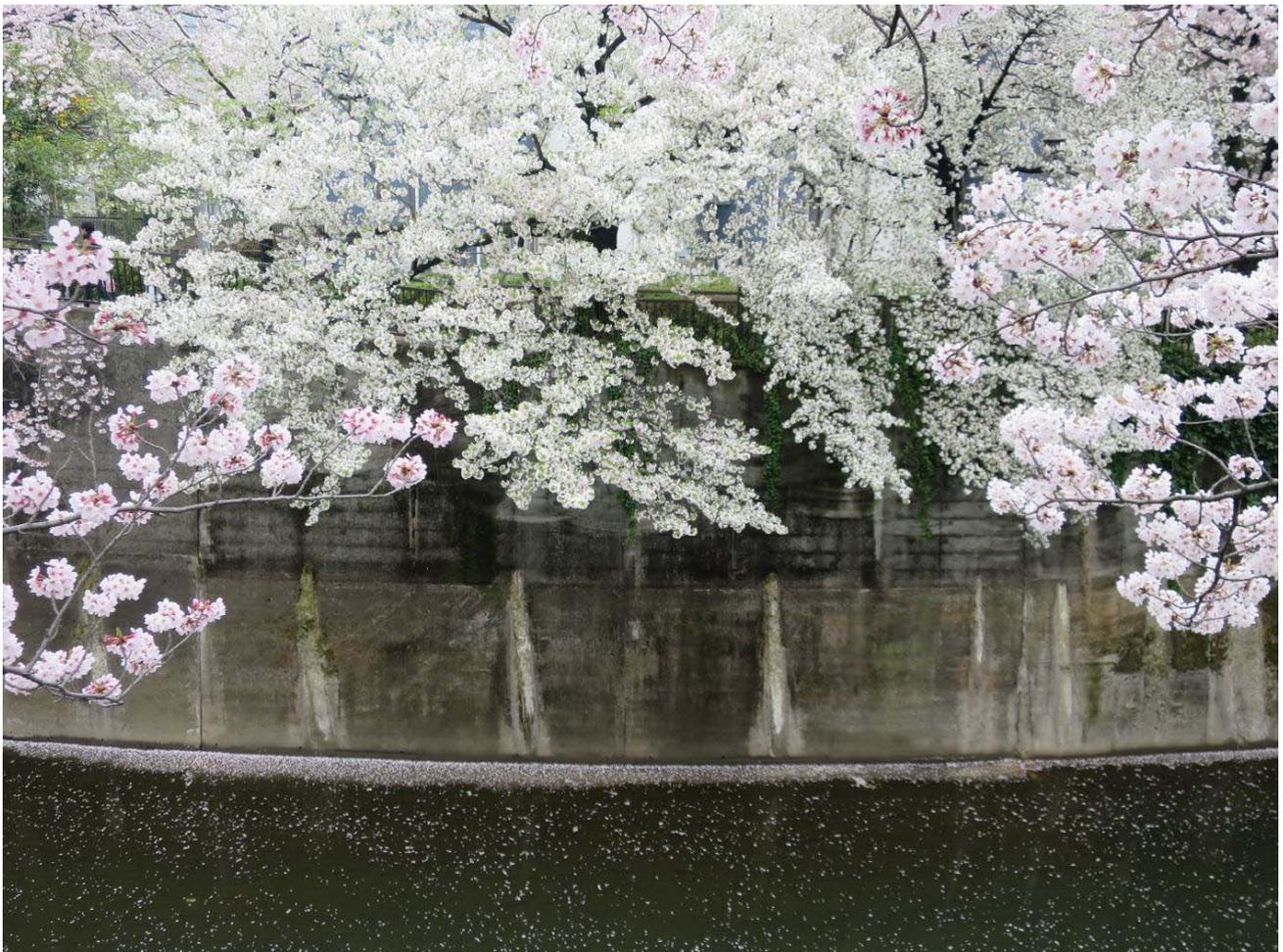
最後に、わたしにとって川は、人間も動物も虫も木々も、生き物すべてが友達で、世界がもっと色鮮やかだった頃を思いだし、子供だったあの夏に戻れる場所である。

(次は堤陽星さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.96

岡村幸二 (JRRN 会員)

桜色に染め上げて： コンクリートの石神井川も桜の花に被われて夢の世界



撮影：2017年4月（東京都板橋区・石神井川緑道）

◆川に沿ってサクラの回廊

石神井川は台地を削って大きく蛇行しながら流れます。例年よりかなり遅い桜の満開がやってきました。空模様を気にしながらも晴れやかな顔の散歩姿が目立ちます。

◆桜に捧げる業平の心

世中にたえてさくらのなかりせば 春の心はのどけからまし （在原業平：古今集）。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

会議・イベント案内 (2017年5月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■巡回企画展『ゲリラ豪雨展』 in 砂川遊水地

- 日時：2017年4月28日(土)～5月21日(日)
- 主催：北海道開発局札幌開発建設部滝川河川事務所
- 場所：砂川遊水地管理棟(北海道砂川市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2748.html>

■巡回企画展『雨といきもの展』 in 滝川地区地域防災施設

- 日時：2017年4月28日(土)～5月21日(日)
- 主催：北海道開発局札幌開発建設部滝川河川事務所
- 場所：滝川地区地域防災施設(川の科学館)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2748.html>

■写真展 水のこと「水の国、わかやま。」

- 日時：2017年5月12日(金)～2017年5月18日(木)
- 主催：和歌山県・和歌山県観光連盟
- 場所：富士フィルムフォトサロンスペース2(東京都港区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2580.html>

■2017年度河川技術シンポジウム

- 日時：2017年6月15日(木)～16日(金)
- 主催：土木学会水工委員会河川部会
- 場所：東京大学農学部 弥生講堂(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2521.html>

■第12回 隅田川クリーン大作戦

- 日時：2017年6月17日(土) 8:45～12:00
- 主催：隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会
- 場所：隅田川テラス(東京都内)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2755.html>

■第10回いい川・いい川づくりワークショップ

- 日時：2017年9月9日(土)～10(日)
- 主催：いい川・いい川づくり実行委員会
- 場所：福岡大学(福岡県福岡市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2584.html>

■応用生態工学会第21回大会/ELR2017名古屋

- 日時：2017年9月22日(金)～25日(月)
- 主催：応用生態工学会
- 場所：名古屋大学(愛知県名古屋市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2588.html>

■第17回川に学ぶ体験活動全国大会 in 北九州

- 日時：2017年10月14日(土)～15(日)
- 主催：川に学ぶ体験活動協議会
- 場所：北九州市芸術劇場ほか(福岡県北九州市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2586.html>

書籍等の紹介 *Publications*■水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？
(2017.3 発行)

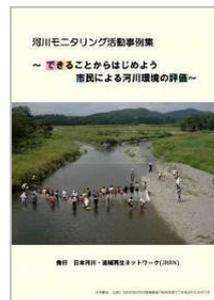
- ・発行：「小さな自然再生」研究会/日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・発行年月：2017年3月
- ・ページ数：16ページ



水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう
市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授(JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

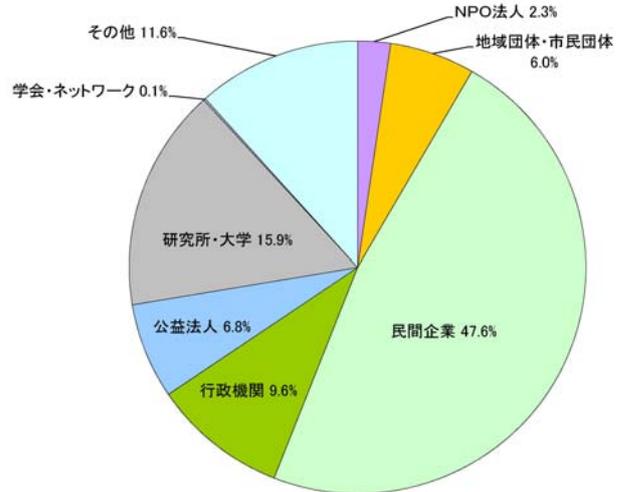
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週1回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2017年4月30日時点の個人会員の所属構成
(個人会員数：754名、団体会員数：60団体)

※4月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階 (公財)リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

